

洛友会会報

京都大学電気系専攻内
洛友会
〒615-8510
京都市西京区京都大学桂
075-383-7014
www.rakuyukai.org

東京支部の改革進捗状況

東京支部支部長 古濱 洋治 (昭38年卒)



1 はしがき

最近の洛友会は、全体としても、東京支部としても大きな課題を抱えています。その発端は、平成17年4月に施行された個人情報保護法との関係で、洛友会名簿をこれまで通りに発行できるかどうかの課題が浮上したことです。この問題は、洛友会の財政に深刻な影響を与え、さらに、洛友会活動そのものをどのように維持・発展させて行くかという本質的な問題に発

2 会員名簿の発行

洛友会は、平成17年度に名簿の発行を控え、近年の会費納入率の著しい減少と広告収入への依存の困難さの増大に加えて、個人情報保護法等への対処のため、本部に「洛友会改革WG」を設置して検討を開始し、その結果会員名簿の発行を一年延期して平成18年度に発行すると共に広告収入依存からの脱却を決めました。本部会費で名簿の発行・配布を行うため、従来2年毎に発行していた名簿の発行間隔が3〜4年に一度になる公算が大です。

3 財政問題

これまで東京支部の収入は、会費と広告収入の2本建てでした。近年、洛友会の会費納入率が減少し4割を割り、そのまま推移すると近い内に3割を割るという危機的状况にあります。また、広告収入に依存することが出来なくなり、歯止めを掛け支部活動を会費のみで運営できる体質にすることが急務となりました。東京支部では受益者負担を原則に諸支出の削減を行い、取り敢えず平成17年度は支部会費のみで運営することが出来ました。

会費納入の促進については、平成17年秋の支部講演会の時、会費納入率の向上について訴え、共に、本部と連携して会場で会費の徴収を代行しました。これにより支部の会費納入率の低下に歯止めを掛けることが出来ました。

4 年次別支部会員

秋の支部講演会は、会員の親睦特に若手会員の親睦を目的として開催し、127名の参加が有り大変好評でした。また、支部会員に講演会の案内状を送付する段階で次のようなことが明らかになりました。

図は、現在東京支部が把握して

いる「アクセス可能な支部会員」数を示し、平成15年度発行の洛友会名簿の情報を基礎にその後の変更を加えたもので、総数1,750名です。この「アクセス可能な支部会員」数は、昭和48年卒の60名をピークに以後年々減少しています。これらは転勤や転職に伴って、洛友会本部及び東京支部が住所を把握できなくなった支部会員や関東地域に居住しながら東京支部が把握していない会員（これらを仮に「未把握支部会員」とする）が多数存在することを意味しています。データが些か古く誤差の大きいものですが、洛友会会報(第208号)における馬場前支部長の試算によりますと支部会員数は約2,100名ですから、

「未把握支部会員」(約350名) 〓
「支部会員」(約2,100名) | 「アクセス可能な支部会員」(1,750名) 〓

会費納入率について大雑把に言えば、平成17年度は「アクセス可能な支部会員」の内43%が会費を納入し、これは「支部会員」の36%に対応しています。これより会費納入率の向上には、「払い忘れを少なくする方法」を編み出して着実に実施すると共に、「未把握支部会員」を少なくすることが重要であることが分かります。「払い忘れを少なくする方法」の

5 若年会員の参加意識の向上と支部活動のあり方

何故、若手なのか。東京支部では、支部長の卒業年次より若い会員を「若手会員」と呼んでいます。今年度は昭和40年卒以降の会員が「若手会員」に対応しています。これより先輩の昭和30年代半ば卒以上の年代では、支部の会員数も会費納入状況も取り立てて問題にすることはないと考えています。しかし、近年の会費納入率の著しい低下、「アクセス可能な支部会員」の減少に見られるように、「若手会員」の洛友会離れは際立っており、このままにしておくと洛友会は求心力を失い崩壊せざるを得ない状況にあります。とは言うものの、会員の洛友会の求心力が増すような即効性の特効薬のよ

うなものはいつきません。遅効性ではあるが、長続きするような処方箋を見つけることが出来れば良いと考えています。

一般に、働き盛りの時は仕事で忙しく、支部活動に注意を向ける暇はなく、その必要性を殆ど感じないのではないのでしょうか。第一線から退く年代になりますと、支部の活動に参加してみようという気になる時があるかも知れません。その場合、支部との連絡が途切れているとそれも難しくなります。従って、支部との連絡が途切れてしまわないような方策が、本部、支部、会員に求められます。

その第一は、学生時代から卒業するまでの間に、どれだけ洛友会のことを聞き・経験したかということが、その後の支部活動への参加の鍵となることです。卒業年次によって、洛友会への思いに大きな差があります。個人差はあるものの、卒業までに様々な体験を通して洛友会の会員の自覚を持つて支部会員となった年次と全然そのような機会なくして支部会員となった年次(若手が多い)とでは、洛友会への帰属意識に大きな差があります。「洛友会改革WG」において、会員になる前の学部学生に体験を通して洛友会を理解して貰う事の重要性が指摘され、この一環として教室における懇話会

の洛友会との共催や学生会員制の導入についての検討が始まっています。

第二は支部活動の留意点です。東京支部では、講演会、見学会、拡大クラス会、趣味の会など様々な支部活動を通じて会員の親睦を図っています。また、支部ホームページを開設し支部活動が会員に良く見えるように心掛けています。特に、若手会員層の活性化の一環として、学年幹事連絡網を整備し、秋の講演会の開催や若手学年幹事との意識合わせのためブレインストーミングを試みています。少数の若手年次を除くと、殆どの年次で5年毎ぐらいに同窓会を開催しており、この年次毎の同窓会幹事あるいは学年幹事を通じて支部との連絡の強化を図っています。また、現在では少なくともありますが、企業内洛友会の続いていくところが、この会合の幹事とのチャネルも引き続き活用しています。次に、検討を始めたばかりですが、若手会員が所属した研究室の縦の繋がりは卒業後も続いていることが多く、研究室毎の集まりの幹事との連携も支部連絡網の整備に有効ではないかと考えています。

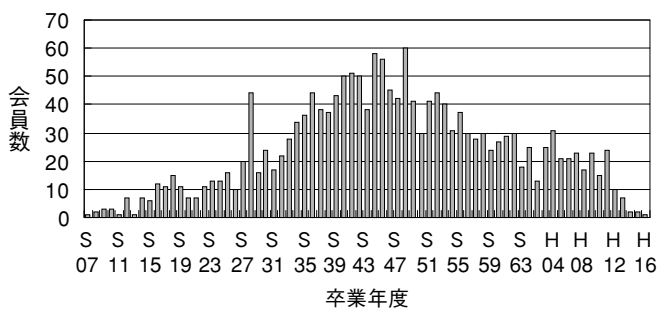
6 おわりに

「洛友会改革WG」の大きな成

果として、洛友会本部事務局の桂キャンパスへの移転と事務局長に教官の任命と事務局員の配置、及び吉田キャンパスにおける本部事務局分室の設置と会員情報の管理の実施があります。教室と本部事務局の有機的に結合により、洛友会活動の活性化と、会員情報の維持・更新の円滑な推進が期待されます。洛友会に新しい時代が来ると思われます。

若手会員に洛友会への求心力が働くようなインセンティブを与えることが出来れば良いのですが、そのような処方箋を書くことは容易ではありません。しかし、皆無ではありません。独立大学法人化

アクセス可能な支部会員数



した大学が、私立大学に見られるようにOB会の運用を積極的に考えるならば、新しいミッションが生まれましょう。しかし、この検討には時間が掛かりそうです。

秋の支部講演会の質疑応答では、久しぶりに熱気を感じ、会員の熱い思いの一端に触れました。支部の改革と活性化は端緒にいたばかりです。先輩諸兄の努力で培われた支部活動を絶やすことなく発展させたいと思いますので、引き続きご支援・ご鞭撻をお願いします。

教室だより

教員の異動

退職(平成18年3月31日付)

電気工学専攻 荒木光彦 教授

(複合システム論) 松江高専校長就任

生存圏研究所 松本 紘 教授

(宇宙電波工学) 京大理事(副学長) 就任

エネルギー科学研究科 吉川榮

和教授(エネルギー情報学)

エネルギー科学研究科 塩津正

博教授(プロセスエネルギー学)

転出(平成17年6月1日付)

知能情報学専攻 佐藤理史 助教

授(言語メディア) 名古屋大学

(平成17年8月1日付)

電子工学専攻 芝内孝禎 助教

(鈴木研) 京大理学部 (平成18年1月1日付)

電気工学専攻 上原哲太郎 助教

授(島崎研) 京大芸術情報メディアセンター

(平成18年4月1日付)

電気工学専攻 垣本直人 助教

(大澤研) 北見工業大学

電気工学専攻 松澤淳一 講師

(数学担当) 奈良女子大学

知能情報学専攻 宇津呂武仁 講師

師(言語メディア) 筑波大学

昇任(平成17年8月1日付)

エネルギー理工学研究所 岡田

浩之 助教(佐野研)

(平成18年4月1日付)

電子工学専攻 木本恒暢 教授

(半導体物性工学)

電気工学専攻 蛭原義雄 講師

(萩原研)

電子工学専攻 酒井 道 講師

(橘研)

着任(平成17年10月1日付)

通信情報システム専攻 山本高

至助手(吉田研)

(平成17年12月1日付)

通信情報システム専攻 土谷

亮助手(小野寺研)

(平成18年2月1日付)

電子工学専攻 青木学聡 講師

(付属情報センター、北野研)

(平成18年4月1日付)

知能情報学専攻 黒橋禎夫 教授

(言語メディア)

こんな調子で犬と付き合っておりますが、二年前の正月に父犬が死に今年の三月には母犬が死んだため子供の犬二匹になりました。特に娘の子犬は十一年間も母犬にあまえておりましたので、さみしさが身にしみているようです。二匹共あと何年の命分かりませんが最後までこの調子で散歩に出たいと思っております。この所の札幌は毎日夏日が続く犬にとってはきびしい季節の到来です。

最後まで駄文にお付き合いいただきありがとうございます。

企業の社会的責任について

富岡 洋光 (平2年卒)

最近、仕事でCSRに携わるようになりました。CSRとは、英語の「Corporate Social Responsibility」の頭文字をとったもので、日本語では「企業の社会的責任」と訳されます。この「企業の社会的責任」というキーワードは、特にここ数年、国内で話題になることが多くなってきました。例えば、日経4紙(日本経済新聞、日経産業新聞、日経MJ、日経金融新聞)で「CSR」または「企業の社会的責任」という表現が取り上げられた回数は、平成14年では1年間で57回であったものが、平成15年は366回、平成16年は1372回、平成17

年は1373回と急激に増加しています。

CSRとは、企業は、法令遵守は当然のこととして、社会に役立つ商品やサービスを提供するという経済的責任だけでなく、人権保護などの社会的側面や環境保全などの環境的側面からも積極的に責任を果たさないといけないという考え方です。このCSRですが、ヨーロッパにおいて盛んに取り上げられるようになり、日本でも取り上げられるようになったものなのですが、単なる輸入された概念ではなく、日本人がもともと持っていた考え方もあります。例えば、近江商人の「三方よし」という考え方があります。江戸時代、近江商人の行商は、他国で商売をし、やがて開店することが目標であり、旅先の人々の信頼を得ることが何より大切でした。その商売の心得として説かれたのが、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」です。これは、商売においては、当事者である売り手と買い手が満足するだけでなく、それが世間のためになるものでなければならぬということを戒めたものです。

では、なぜ最近になって、CSRが注目されるようになってきたのでしょうか。それは企業不祥事が頻発する中で、社会が企業を見

る目が非常に厳しくなってきたということが大きいと考えています。集団食中毒を起こしたにもかかわらず適切な対応をしなかった雪印乳業やリコール隠しを行っていた三菱自動車は世間からの非難を浴びて会社存亡の危機に陥りました。最近では、耐震偽装されたマンションを販売していたヒューザー、死亡事故を起こしたシンドラレーエレベーターの対応が非難を浴びています。これらの例でも分かるように、企業には「説明責任」が求められるとともに、「ウソをつく」「隠蔽する」ということが何よりも厳しく非難されるようになっていきます。さらに、単にルールを守りさえすれば、何をしても良いということではなく、企業にも倫理であるとか、一步踏み込んだ対応が求められるようになってきています。アスベスト問題で工場周辺の住民に対してもいち早く補償を表明したクボタや、年末商戦の真っ只中にテレビCMを全てリコール告知に差し替えた松下電器の対応などに見られるように、企業としての社会的責任を果たして、社会からの信頼を得るには、これまで以上に踏み込んだ対応がとれるかどうかがキーになっていきます。

仕事柄、業種を超えて様々な企業においてCSRや企業倫理の最

前線で働いている方と議論する機会があります。そこでテーマになることが多いのが、企業としての社会的な責任をきちっと果たしていくためには、「組織としてのルール整備」だけでは十分ではなく、役員から現場第一線の従業員に至るまでの「一人ひとりの意識」の問題が重要であるということだと思います。いかに素晴らしいルールを整備していたとしても、全ての業務についてあらゆる事態を想定したルールを整備することは不可能であり、実業務においては一人ひとりの判断が重要であるためです。クボタや松下電器の例は経営レベルでの判断ですが、もっと小さなレベルでもジレンマに陥ることがあります。そういった時に、どんな判断ができるかは「一人ひとりの意識」の問題です。これについては、企業側でも特効薬はなく、地道に教育・啓発活動を行っていくしかないというのが大方の見方です。

伊藤忠商事の丹羽宇一郎会長は著作の中で「清く、正しく、美しく」と、よく仰っておられますが、まさに、そういったことが役員・従業員一人ひとりに求められる時代となったのです。そんな時代です。企業としても、一人ひとりの社会人としても「品のある行動」をとることを心がけていき

いと考えています。

国家の品格

岩見 紀征 (平8年卒)

2年間の米国MBA(経営学修士)留学中、薄々感じていた事はこれだったのかな。ふと手に取ったベストセラー「国家の品格(藤原正彦氏著)」を読みながらそう思った

「日本人の諸先輩がいかに偉大だったかを感じる2年間になると思う。米国に来て初めて日本を大事に思うようになった。」渡米後間もない時期、入れ違いで卒業される日本人の方に街を案内してもらいながら聞いた言葉に、正直、戸惑った。そもそも国というものを意識して過ごしてきた訳ではなかったから当然だろう。それに日本にそれほど誇りも持てなかった。子供の頃から先生達に「日本は良い国だ。」と言われてきたのに、自分が社会に出るころには経済不振にあえぎ、治安も悪化していた。他国からも、日本からはもはや学ぶことはないと言われてるようになり、経験を分かちあう場とされるMBAコースでも、日本人よりも中国人やインド人を多く入学させるようになっていた。

とにかく、家族3人で過ごした2年間の米国生活は公私共に充実

した毎日だった。平凡な日など、ほとんど記憶がない。留学中の勉強量は半端ではなかったし、言語の壁も厚かったが、それら乗り越えることで大きな自信を得ることもできた。それに、一生もの友人が世界各国にできた。この経験は今後の自分の人生に大きな影響を与え続けることは間違いなく、留学を勧めてくれた上層部の方々、支え続けてくれた方々など、多くの人に感謝してやまない。

そんな良い思い出の残る米国は今でも大好きである。これからの何度でも行ってみたい。なぜだか分からないが、あの広大な土地にいと、変なプライドや意地などはどうでも良くなり、自然体でいることができた。しかし、米国はどこか病んでいるのではないか。そう思わずにはいられなかったのも事実である。自分の回りにいた米国人の大半は、中流・上流の人々で、彼らの生活は本当に豊かだった。しかし、その一方で、世界のどの国よりも豊かなはずの国は、多くの歪を抱えていた。日本など比べものにならない格差社会。根強く残る人種差別。治安の悪い貧困街。手を汚す仕事は全て移民の人たちまかせ。この国から学ぶことは多いが、だからと言ってあまり真似してはいけないのではないかと何度も思った。

藤原氏は「国家の品格」の中で、米国をはじめとする世界各国の格差発生の一因は、情緒よりも論理を重んじ過ぎたことにあるとしている。確かに、米国では先生も同級生も、とにかく論理的であることを第一としていた。一般の人はそうでもないが、いわゆるエリート層は、何が正しいではなく、「考え方」のみ正しければよいという感じだった。確かに一見論理だし明快だが、それは違うだろうと議論をしながら何度も感じた。

論理的に正しければイラクに侵攻することすらよし、とされる国であり、恐ろしい話である。藤原氏が言うように、「正しいことは正しいだけのことだ。」と何度も思った。滞在中、日本人には日本人の、米国人には米国人の良さがあると何度も感じた。米国人の、いつもユーモアを忘れないところや、女性や子供には必ず席を譲る態度など、彼らの良さを何度も目にした。一方で、英語は流暢だが、日本人の良さである謙遜さを忘れ、尊大な態度をとる日本人を米国で目にするのは少なくなかった。米国人も実はあんな風に行儀は悪くない。彼らは結局米国人のごく表面だけを真似ただけで、米国人の良さも身につかず、日本人の良さも失っていたように思った。米国人にはなろうとしてもなれるもの

ではなく、日本人としての良さをもっと大事にすべきではないか、と思わずにはいられなかった。英語はたどたどしくても、一生懸命勉強する我々日本人学生は他国の同級生たちから賞賛された。また、トヨタ方式なども授業で話題になったが、そうした日本発の考えに感嘆の聲が上がる度、諸先輩方が積み上げてきたことのすばらしさを感じずにはいられなかった。

そうした経験を通し、渡米直後に先輩から聞いた言葉通り、日本という国にもっと誇りを持たなければならぬと思うようになった。それに、自分の国に誇りを持つてなければ、他国の人々の思いを尊重することもできないのではとも思った。そして、みんなが日本に誇りをもてるようになるために、藤原氏が書いた欧米の悪口や国語教育の大事さなど、年配の方に受けが良さそうな部分のみが心を捉えた一過性のブームではなく、氏が本心に意図した「国家の品格」の再構築が進んで欲しいと思う。いまさら武士道の昔に戻ることはできないかもしれないが、日本の良さを再認識する一方で、他国に学ぶべきことは学び、今まではまた違う「国家の品格」が形成されることを願わずにはおれない。

今も時々英語を口にする娘が大きくなる頃には、日本がもっと良

同窓会だより

昭和36年卒業
45周年クラス会

我々のクラスはこのところ5年毎に京都でクラス会を開催している。卒業30周年は貴船・栢喜久、35周年は御所西・ガーデンパレス、40周年は嵐山・渡月亭で開催した。今年は45周年となり、電気電子工学専攻大学院のある桂キャンパスの見学希望が多かった中で、桂キャンパスに最も近いと思われるホテルである洛西ニユータウン・京都エミナースで5月22、23日に開催した。京都エミナースでは数年前から敷地内地下を千二百米ほど掘削し、3年前から良質の温泉を提供している。多くの同級生がすでに時間を自由に使える身になっていると思われるので、これまでの土・日曜開催を月・火曜開催とした。ほぼ半数の同級生が参加した。

桂キャンパスでは、大澤靖治教授のお世話で、たいへん見晴らしが良く比叡山や東山が眺望できる事務管理棟3階の会議室で桂キャンパスの全体像の説明を受けた。広々としたキャンパスは今後の大きな発展の可能性も秘めているように思えた。ただ我々の時代は工学部の中では人気のある学科だった電気・電子工学科が現在ではあまり人気がないように時代によってずいぶん変遷があるものだよや淋しい感じがした。その後、超伝導工学研究室、電力変換制御工学研究室、プラズマ物性工学研究室などを案内していただき、新しい設備と優れた研究結果に感心しきりであった。

宴会では、恒例により各人が現状報告と称して1分半の制限時間でスピーチを行ったが、やはりみんな話すことがたくさんあり予定を大幅に超過した。最後に、5年後の50周年クラス会を京都で開催することを確認し、再会を約した。宴会の後は、カラオケ、温泉、各室での懇談など遅くまで続いた。

次の日は、ゴルフ組と天王山麓方面見学組に分かれた。ゴルフ組は早朝にホテルの車で亀岡カントリーまで送ってもらい、関東から5名、関西から4名が参加し、3人1組となつて、楽しくラウンドした。前半は曇り、後半は小雨となつたが皆元気で、前の組から遅れることなく、予定より早く終

了した。齢を重ねて独特のスイングの人が多かったが、何故かポールは真直ぐ飛ぶのが不思議であった。5年後再び元気にプレーできることを願って散会した。

見学組は、まず聖武天皇が勅願し僧行基が建立したといわれる宝積寺を見学し、次いでアサヒビール大山崎山荘美術館を見学した。この美術館には陶磁器、漆器、染色、織物、日本画、西洋絵画(モネの睡蓮など)、現代彫刻などが陳列されており、庭園がまた美しかった。ここまでは大山崎の見学案内ボランティアの方にお世話になった。さらにサントリー山崎蒸溜所で製造工程の見学を行いました「シングルモルトウイスキー山崎」をつまみつきで試飲し大いに楽しんだ。前回参加し、今回参加できなかつた人との連絡で気づいたこと



は、5年前と比べて健康状態が悪くて参加できないという人が数人いたことである。我々の年代はおそらく寝食を忘れてよく働いたことと思う。それらの無理が尾を引いているのではないかと懸念を感じるとともに今後の同級生の健康を切に祈りたい。

幹事 大串健吾、釜江尚彦、林 幸平、藤井泰郎、山下正義

昭和38年クラス同窓会

電気電子昭和38年卒のクラスは、ほぼ5年に一回のペースで同窓会を開催しています。今回はこれらの中に位置する卒業後43年目の同窓会でした。五月晴れの平成18年5月15日(月)午後から、箱根・湯本富士屋ホテルで昭和38年卒同窓会を開催し、同伴者を含めて25名の参加がありました。多くの参加者にとって2年半ぶりの再会であり、懇親会・二次会を含めて夜遅くまで話題が途切れませんでした。参加者の殆どは、引き締まった体をしていて心身ともに健康を保たれているのは驚きでした。新しい力を貰った感じを抱かれたのは、私のみではなかつたでしょう。

懇親会は、参加者の強い要望があつて机・椅子のスタイルで和食を選びました。乾杯して、ひとし

きり食事・歓談の後、集合写真を撮りました。その後、ほぼ全員から2〜3分ずつスピーチをして頂き、最後は琵琶湖周航の歌と三高寮歌の斉唱で締めくくりました。この間、次回は卒業45周年記念同窓会を関西で行うことで合意し、担当する幹事4名を選定し、2年後の再開を約しました。二次会は和室に移り20名近くが時間を忘れて語り合いました。

湯本には、ひめしゃらの湯やベゴニア園があり、早めに到着された参加者がお湯を楽しみました。翌日16日(火)には、ゴルフ同好者7名が参加して「富士屋仙石ゴルフコース」で懇親ゴルフ会を開催しました。ここは大正6年開場の日本ではパブリックコースとして2番目に古い伝統あるところ、アップダウンの少ない風格あ



るコースです。プレイ途中、昼食前後に強い驟雨にたいプレイ中断の声もでたが、がんばって続行しました。後半は雨も止み、新緑の仙石原で大いに楽しむことができました。

古濱 洋治(昭和38年卒)記

卒業40周年記念同窓会

平成18年4月22・23日両日、京都にて昭和40年卒業生(昭和36年入学、40年学部卒業、42年修士修了)、卒業40周年記念同窓会を開催した。

22日(土)、装いも新たになつた、京大時計台記念館に三々五々参集。懐かしい写真など展示品を見た後、松本絃君(京大副学長)の「京都大学の近況」、平田康夫君の「これからの人生」楽しい趣味」という同窓生の講演を聞き、バスにて桂キャンパスへ移動、母校の変革、新生の息吹を感した。

夜の懇親会は嵐山「渡月亭」にて同窓73人と夫人5人に加え、長尾真洛友会々長をはじめ、坂井利之先生、若林二郎先生、川端昭先生、板谷良平先生の恩師5名のご臨席を賜り、物故者7人のご冥福をお祈りしたあと、祝宴に入り、思い出話や近況報告など尽きぬ話題と美酒に酔いしれ、いつしか青春時代にタイムスリップ、時の経

つのを忘れた至福のひとときであった。翌23日(日)は、心配した雨も上がり、観光組とゴルフ組に分かれ渡月亭を出発した。

観光組は、水かさの増した保津川下りを楽しんだあと、嵯峨野散策など、春たけなわの京都を満喫した。

ゴルフ組は、グランベール京都GCにて8組の大コンペとなり、東西対抗戦など趣向を凝らし日頃の腕前を競った。特に特別参加の長尾真先生は準優勝、木村磐根先生はドラコン、ニアピンを獲るなど実力を発揮、打上げパーティーも大いに盛り上がった。

同窓生皆、次回の再会を楽しみに思い出に残る同窓会でありました。

森本 浩志(昭和40年卒)記



表(3) 平成18年度収支予算 [一般会計]
(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 平成17年度決算額, 備考. Includes sections for 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

表(1) 平成17年度収支決算報告書 [一般会計]
(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Includes sections for 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

本部だより

本部総会報告

平成18年度本部総会は5月28日(日)、京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホールにおいて、関西支部総会に引き続いて開催さ

れ、本・支部会員76名の出席があった。始めに長尾会長より、洛友会改革の状況ならびにミツシヨンの明確化の必要性について挨拶をいただいた。また、木村代表幹事より、事務局が教室内に移転した旨の説

明と事務局メンバー交代の紹介があり、議題の審議に移った。平成17年度の事業報告ならびに収支決算書について旧事務局より説明があり、全会一致で承認された。一般会計では、講習所からの寄付金ならびに利息を収入として

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 平成17年度決算額, 備考. Includes sections for 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Includes sections for 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成18年4月24日、領収書、帳簿など関係書類を慎重に監査し、収支決算書は適正であると認めました。

幹事 松重 和美

表(4) 平成18年度収支予算書 [特別会計]
京大電気百周年記念事業
平成18年4月1日～平成19年3月31日

Table with 3 columns: 収入の部 (単位:円), 金額, 備考. Includes 賛助会費, 利息収入, 収入合計, 前期繰越収支差額, 収入合計.

Table with 3 columns: 支出の部 (単位:円), 金額, 備考. Includes 事業費 cue刊行費, 印刷費, 送料費, 管理費, 事務委託費, 通信費, 雑費, 支出小計, 次期繰越収支差額, 支出合計.

表(2) 平成17年度収支決算書 [特別会計]
京大電気百周年記念事業
平成17年4月1日～平成18年3月31日

Table with 3 columns: 収入の部 (単位:円), 金額, 備考. Includes 賛助会費, 利息収入, 収入合計, 前期繰越収支差額, 収入合計.

Table with 3 columns: 支出の部 (単位:円), 金額, 備考. Includes 事業費 cue刊行費, 管理費, 事務委託費, 通信費, 雑費, 支出合計, 次期繰越収支差額, 支出合計.

Table with 3 columns: 財産目録 (単位:円), 金額, 備考. Includes 現金, 普通預金, 定期預金, 郵便貯金, 資産合計.

平成18年4月24日 上記収支決算書並びに財産目録を確認しました。 署名人 松重 和美

算入したことにより予算額を上回った(表(1))。また、教室支援費として卒業式懇親会費用が特別会計から支出された(表(2))。引き続き平成18年度の事業計画ならびに収支予算案(表(3))、表(4)について新事務局より概略説

明があり、異議なく承認された。特別会計の賛助会員数が関係教員の努力により増加しつつある旨の説明があった。次いで、会則の変更について木村代表幹事より説明があった。ミツシヨンの明確化、会員・役員等

の記述の整理が変更の主なポイントである。情報誌cueの出版に関する規約を参考事項として記載することも含めて、異議なく承認された。(新会則ご参照)

役員の変更については、松江高専校長に就任のために退職された荒木光彦副会長(教室代表)の後任として島崎眞昭教授が選任された。

名簿発行に関しては、名簿管理・名簿発行のための調査の中間集計結果について木村代表幹事より報告があり、名簿発行は可能であると考えられるので12月初旬の発行を目指して準備する旨の説明があった。

最後に学科長の佐藤亨教授より、教室の現況について報告があり、その後、隣室において懇親会を行った。(懇親会については関西支部活動報告ご参照)

洛友会会則

第1条 本会は洛友会と称する。

第2条 本会事務局は京都大学桂キャンパス電気系専攻内に置く。

第3条 本会は京都大学電気電子関連研究室卒業生を中心とした会員相互間の親睦を図り、また研究室の教育研究活動を協力・支援するとともに、在学生に先輩として助言するなど、電気電

子関係教室と協力して積極的な活動を行う。

第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1 会報を作成し会員に配布する。

2 名簿を作成し会員に配布する。

3 総会を年1回開催する。

4 会員相互の啓蒙のため、会員による最新技術の紹介等を通じ情報共有を促進するとともに、関連研究室の教育研究活動を支援し、また在学生のために先輩として講演会や交流の場を設けるなど、適切な助言をする場を提供する。

5 洛友会の特別会計(京都大学電気工学教室一〇〇周年記念事業基金)から、京都大学電気関係教室の情報誌cueの出版を助成する。

6 その他本会の目的を達成するために必要な事業を行う。

第5条 本会は次の正会員で組織する。

京都大学工学部電気工学科・電子工学科・電気工学第2学科卒業生

京都大学大学院工学研究科電気工学専攻・電子工学専攻・電気工学第2専攻修士課程及び博士課程修了生

京都大学工学部電気電子工学

科卒業生

京都大学大学院工学研究科電気工学専攻・電子物性工学専攻・電子通信工学専攻修士課程及び博士課程修了生

京都大学大学院エネルギー科学研究所・情報学研究所専攻の関連研究室修士課程及び博士課程修了生

京都大学大学院電気工学専攻・電子工学専攻修士課程及び博士課程修了生

電気工学講習所卒業生

役員会で承認を得たもの(推薦会員)

第6条 本会には次の役員を置く。

会長 一名

副会長 若干名のうち1名は電気系教室の教授をもってこれに当てる。

幹事 若干名 そのうち少なくとも1名は電気系教室の教授が務め、かつ洛友会本部の事務局長となる。

第7条 会長、副会長は総会の議を経て選出する。

第8条 会長は会務を統括処理する。副会長は会長を補佐する。

第9条 幹事は幹事会を組織し、役員会および会長への提言を行うとともに、会務を処理する。幹事会の長は幹事の互選による。

第9条 本会には名誉会長1名、および顧問若干名を置く事ができる。名誉会長、顧問は役員会の議を経て会長が委嘱する。

第10条 会長、副会長、幹事及び支部長は役員会を組織し、会の重要事項を審議決定する。

第11条 会長は評議員若干名を卒業年度別に選出し委嘱する。

第12条 評議員は会長の諮問に応え、たとし重任を妨げない。

第13条 本会には会費および寄付金をもって経理する。

第14条 正会員の会費は年額三、〇〇〇円とする。

第15条 本会の会計年度は4月1日に始まり3月31日に終わる。

第16条 本会の予算及び決算は総会において承認を得るものとする。

第17条 本会は地域別に支部を設けることができる。各支部の会則は本会則に準じて支部において作成する。

第18条 本会則の改正は総会の決議を経なければならない。

付則

本会則は昭和27年11月23日より施行する。

本会則は平成18年5月28日に改正。

支部会則 省略

ただし支部会費は、年額一、〇〇〇円として本部会費三、〇〇〇円と共に会計年度の初めに納入するものとする。

cue出版に関する規約(参考事項)

洛友会は、京都大学電気関係教室の教育研究活動を支援するため、下記の要領で教室の教育研究情報誌cueの定期的な出版を支援する。

1 京都大学電気関係教室のすべての研究室について、その教育研究活動を原則として年2回に分けて紹介し、産学連携に寄与すると共に、在学生、卒業生、関連大学、高等学校に対してもこの情報誌を配布して、その活動を紹介する。また関連する産業界の最近の動向なども掲載を依頼し、産業界ならびに京都大学電気関係教室とのより密接な関係の構築を期待する。

2 この出版のための費用は洛友会特別会計、すなわち京都大学電気工学教室百周年(一九九八年)記念事業費の残額を基金として支弁するが、産業界に賛助

会員としての加入を積極的に依頼し、この情報誌の出版が長期間継続できるよう努力する。cue誌の賛助会員は一口年額一〇万円とする。(企業によって広告費(一口一〇万円)の名義での支援を希望される場合も受け入れは可能とする。ただし、この情報誌には広告のページは原則として作らないこととする)

3 cue誌は洛友会特別会計、すなわち京都大学電気工学教室百周年(一九九八年)記念事業基金、および企業からの協力・支援により出版する。cue誌の巻末に毎号協力支援...として賛助会員を含め協力企業の社名を記載する。

4 この情報誌の編集は電気系教室のcue編集委員会が責任を持ち、洛友会が協力する。
(平成18年5月28日)

支部だより

北海道支部総会報告

去る5月13日(土) 18時より札幌市内にて平成18年度北海道支部総会を開催しました。

まず、芝山支部長より挨拶ならびに最近の洛友会に関する動向等の報告をいただきました。次に役員人事について話し合いを行い、平成14年度より支部長を務められ

た芝山龍一氏(S28卒)が勇退され、新支部長には中山道夫氏(S33卒)が就任されることを全員の拍手を持って承認いたしました。芝山前支部長には大変お疲れさまでした。

幹事からは前年度会計報告、今年度予算案をご説明し、承認されました。

この後、中山新支部長のご発声により、懇親会に移りました。今回も8名という少人数でしたが、九十歳から三十代前半といった幅広い世代の出席者が集まりました。例年のとおり、それぞれ近況を報告していただきながらの和やかな会となり、話題は健康、ペット、趣味、そして仕事の話など多岐にわたりました。全員が1つのテーブルを囲み、同じ話題で話ができるのも少人数ならではの利点と思っております。

最後は芝山前支部長にご挨拶をいただき、お開きとしましたが、



数名はさらにススキノの夜を楽しんだようです。

木元 伸一(平元年卒)記

九州支部総会報告

平成18年5月19日(金)、福岡市天神の福岡国際ホールにて、平成18年度九州支部総会を開催しました。本部から幹事の木村先生をお迎えし、九州支部からは主に福岡在住の会員16名が出席しました。

総会に先立ち、当支部恒例のカクテルパーティーを今年も催しました。このパーティーは、総会開始30分前から三々五々集まった出席者が、グラスを片手に歓談するというものです。パーティー開始時には出席予定者全員が集まり、互いの近況報告などを話し、総会開始から早くも盛り上がりつつありました。

総会は岡支部長の挨拶で始まり、昨年度は予定通りに昼食会、懇親会を行い盛況だったこと、年々悪化している会費納入状況などの洛友会における課題、今年度の抱負などについて述べられました。

引き続き、本部幹事の木村先生からご挨拶をいただき、洛友会の今後のあり方検討などの本部の動向についてお話を伺いました。

更に、桂キャンパスの状況などについても、スライドでわかりやすく説明していただきました。近

年の卒業生の進路についてもご紹介頂きましたが、九州の企業への就職が最近なく、九州支部ではここ数年若い新人が全く入っていない状態であることもあり、出席者のうち若い人の割合が減少してきています。ぜひ、九州出身の学生さん等に九州の企業へ就職してもらいたいと感じました。

また、石井幹事、岡崎会計幹事から平成17年度活動実績・会計の報告及び平成18年度活動計画の説明を行い、満場一致で承認されました。

なお、活動計画では、2年前に行ったゴルフ会を今年度またやるという提案がありました。具体的な日程等は今後検討となりますが、支部会員にはゴルフ好きの方も多いため、多数の参加を期待したいと思います。

懇親会は、増岡先輩(昭和21年卒)の乾杯の音頭で始まり、参加



者全員酒を酌み交わしながら、終始和やかな雰囲気、昔話や近況報告などに花を咲かせました。

懇親会の中で参加者全員にマイクを回し一言ずつお言葉を頂きましたが、皆様のお話からさまざまな仕事、趣味などに活動的に取り組まれることが伺えました。

楽しいひとときもあっという間に過ぎ、深町先輩(昭和22年卒)の音頭により万歳三唱で懇親会を締めくくり、最後に全員で記念撮影をしてお開きとなりました。

岡崎 幸治(平8年卒)記

関西支部活動報告

H18年度の関西支部総会が、去る5月28日(日)に、京都大学時計台記念館国際交流ホールにて、76名の参加を得て開催されました。

今回は、母校で開催される初の支部総会となることから、総会に先立ち、まず、吉田キャンパスの見学会が催され、入り口に旧赤レンガ教室の面影を残しつつ改築された教室や時計台記念館の展示施設などを、電気系教室の佐藤亭先生にご案内して頂き、なつかしくも新しくなった学び舎の様子を味わいました。

引き続き、開催された講演会で、松下電器産業(株)コーポレートR&D技術渉外客員の三木弼一氏より、「企業の技術戦略、標準化

と特許」と題してご講演があり、標準化や特許における国際的な歴史や現在の潮流などの概説のあと、最新の電気製品における事例などを挙げながら、標準化による機器の普及促進と、パテントによる競争力や収益の確保とのバランスの重要性についてご紹介いただきました。技術戦略の陣頭指揮をとり、厳しい国際競争を勝ち抜いてこられた豊富なご経験にもとづくお話は、大変興味深く、また示唆に溢れたものであり、講演終了にあたって、会場は参加者一同の感謝の拍手に包まれました。

支部総会は、午後4時から、森本支部長の挨拶で始まり、本部における改革WGの意を受けて、支部としても、活動の見直しを鋭意進めており、電気系教室との連携強化の観点から、昨年度の見学会では桂キャンパスを訪れるとともに、長尾先生の講演会を開催したこと、また支部総会の会場を今年



度から、京都大学百周年記念事業の一環として作られた、ここの時計台記念館に移し、修士在学中の会員も参加しやすい環境づくりを行ったことなどが報告されました。議事では、湯川総務幹事の司会のもと、平成17年度事業報告ならびに決算報告、平成18年度事業計画ならびに予算編成の説明、続いて、平成18年度関西支部役員候補として、支部長 市原達朗（昭42年卒）、副支部長 田中宏毅（昭43年卒）、総務幹事 吉川典雄（昭57年卒）、会計幹事 齋藤ゆみ（昭63年卒）の各氏の紹介が行われ、拍手をもって承認されました。

支部総会の閉会にあたり、新役員を代表して、市原新支部長からご挨拶があり、引き続き電気系教室との連携を深めながら支部の運営にあたっていくとの抱負が述べられ、また、今年度の見学会として、10月に「サントリー山崎蒸留所と信楽の京都大学MUリーダー見学」を計画中であるとの報告がありました。詳細が決まりましたら、支部ホームページやほかきでのご案内いたしますので、みなさん奮ってご参加をお願いいたします。

同会場にて引き続き開催された本部総会の後、午後5時30分過ぎから、恒例の懇親会となりました。懇親会は、長尾会長のご挨拶、森本支部長の音頭による乾杯で幕を

開け、先生方や会員の方々が旧交を温め、また修士在学中の若い会員も交えた世代を超えた新たな交友を楽しみながらの、にぎやかな歓談の場となりました。吉田生協のケータリングサービスで運ばれた料理を囲んで、会員の方々の談笑が広がるなか、本部からは、今回の本部総会で副会長をご退任になった荒木先生、新副会長となられた島崎先生、代表幹事の木村先生から、教室からは学科長の佐藤亨先生、そして支部からは田中新副支部長から、それぞれスピーチがありました。そして、なごり尽きぬなか、全員に歌詞カードが配られ、関西支部恒例の「洛友会の歌」を声高らかに斉唱した後、市原新支部長のご挨拶でお開きとなりました。

津田 雅彦（昭58卒）記

第85回関西支部

ゴルフ競技会報告

第85回関西支部ゴルフ競技会が平成18年5月20日（土）武庫ノ台ゴルフコースにて開催されまし



た。今回は、通常の競技に加えて、第75〜84回の優勝者を対象とした優勝カップの取り切り戦（シニア・一般其々）を実施致しました。当日は天候に恵まれ、アウトは福川氏（昭和30年卒）、インは細田氏（昭和36年卒）の始球式でプレイを開始し、合計17名（内、シニア6名）が競技に汗を流されました。

結果は次の通りです。

（シニアの部）

- 優勝 細田 純一郎（S36年卒）
- 2位 松田 全弘（S38年卒）
- 3位 西村 勝（S34年卒）

（一般の部）

- 優勝 谷口 宏（S40年卒）
- 2位 亀山 卓郎（S42年卒）
- 3位 大田 龍夫（S53年卒）

【優勝カップ取り切り戦優勝者】

- （シニアの部） 福川 幸勇（昭和30年卒）
- （一般の部） 亀山 卓郎（昭和42年卒）

（第86回競技会のご案内）

平成18年10月21日（土）於 武庫ノ台ゴルフコース

多数のご参加をお待ちしております。

（連絡先）

- 関西電力 大田 龍夫（S53年卒）
- 岡崎 俊範（H12年卒）
- 050・7104・0982

編集後記

事務局移転後初の会報ですが、会員各位のご協力により何とか今まで通り発行できました。内容の充実・改善についてのご意見をよろしくお願い申し上げます。事務局 記

訃報

昭4	清水 信夫	16	16
昭9	奥山清治郎	16	12
昭10	林 潔	18	1
昭13	皆川 良二	17	4
昭15	武田 正三	18	2
昭16	平井 滋二	18	4
昭16	大塚 恭二	17	4
昭16	小林 忠男	17	3
昭16	村田 孟	17	17
昭17	坂本 学	17	7
昭17	有馬 徳衛	17	8
昭17	吉田健一郎	17	1
昭17	亀井実三郎	18	2
昭18	山本 政男	16	3
昭18	吉住永三郎	16	12
昭20	鈴木 侃	16	17
昭21	山根 明	18	1
昭22	近藤 章	17	12
昭22	園山 裕	16	9
昭23	土信田 存	18	3
昭26	杉山 和夫	18	6
昭27	西田 和郎	18	2
昭28	国枝 雄	18	2
昭44	林 敏之	18	6
昭51	森 治久	16	5
昭56	西川 晃平	17	9
昭56	西川 晃平	21	30

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。